

平成 25 年度グリーン復興プロジェクト進捗状況

<震災後の経緯と主な進捗>

- 平成 23 年 7 月 東日本大震災復興対策本部が策定した「東日本大震災からの復興の基本方針」に三陸復興国立公園の創設等が明記
- 平成 24 年 3 月 中央環境審議会自然環境部会答申「三陸地域の自然公園等を活用した復興の考え方」
- 平成 24 年 5 月 環境省が「三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン」を策定
- 平成 25 年 5 月 三陸復興国立公園の創設（告示）
- 平成 25 年 11 月 みちのく潮風トレイルの一部開通（八戸市～久慈市間）

<今後の取組方針>

平成 26 年度

- 南三陸金華山国定公園の編入
- みちのく潮風トレイルの路線検討、順次開通
昨年度開通した八戸市から久慈市区間の踏破認定を試行的に実施
- 復興エコツーリズム事業の実施（最終年度）
- 震災遺構を保存し、津波の脅威を伝える震災メモリアルパークをオープン
- 津波浸水域における生物多様性上重要な地域を抽出した重要自然マップ（仮称）の公開
- 第 6 回世界国立公園会議、第 3 回国連防災世界会議における世界への発信
- プロジェクトの普及啓発の強化、各種関連事業との連携

平成 27 年度

- 県立自然公園の編入の検討
- みちのく潮風トレイルの全線開通

<各プロジェクトの取組>

1. 三陸復興国立公園の創設（自然公園の再編成）

平成 25 年度

○平成 25 年 5 月 24 日 三陸復興国立公園の創設（告示）

平成 25 年 3 月 26 日の審議会答申を受け、種差海岸階上岳県立自然公園を陸中海岸国立公園に編入し、名称を三陸復興国立公園とした。

○平成 25 年 5 月 25 日 三陸復興国立公園指定記念式典（八戸市）

環境省、青森県、八戸市及び階上町の共催により、八戸市内での記念式典、種差海岸及び階上岳における国立公園標識の除幕式等を行った。



祝辞を述べる石原環境大臣



階上岳での除幕式

○平成 25 年 7 月 20 日 三陸復興国立公園指定記念フェスタ（宮古市）

浄土ヶ浜地区において、復旧工事の完了した海岸歩道の開通に合わせ、環境省、岩手県及び宮古市の共催により指定記念セミナー等を開催した。



星野自然環境局長の挨拶



海岸歩道開通式の様子

今後の予定

○平成 26 年度を目途に南三陸金華山国定公園を三陸復興国立公園に編入。

○その他の県立自然公園の編入については引き続き検討する。

2. 南北につながぎ交流を深める道（みちのく潮風トレイル）

平成 25 年度

○路線検討ワークショップの開催

平成24年度に引き続いてワークショップを通じて地域の方々と路線の検討を行った。ワークショップの開催回数は以下の通り。（計 14 市町村、53 回）

上半期：八戸市（3回）、階上町（5回）、洋野町（5回）、久慈市（3回）

下半期：普代村（3回）、田野畑村（4回）、岩泉町（2回）、宮古市（10回）、
釜石市（3回）、大船渡市（3回）、女川町（2回）、石巻市（2回）、
新地町（4回）、相馬市（4回）

○平成 25 年 8 月 24 日 みちのく潮風トレイル開通記念イベント

青森県八戸市及び岩手県久慈市において、秋の開通に向けたイベントを開催した。トレイルの専門家による講演やトレイルファッションの紹介、地元市町関係者等を交えたディスカッション等を行った。



会場の様子（八戸会場）



パネルディスカッション（久慈会場）

○平成 25 年 8 月 25 日 みちのく潮風トレイル開通記念ウォークイベント

開通予定の青森県八戸市及び階上町並びに岩手県^{ひろのちよう}洋野町及び久慈市において、モデルコースを歩くイベントを実施。4コースの合計で 400 名を超える一般参加があった。また、階上町^{こみなと}小舟渡や久慈市^{こそで}小袖のゴール地点での参加者への振る舞いなど、自治体や地元住民の協力があつた。

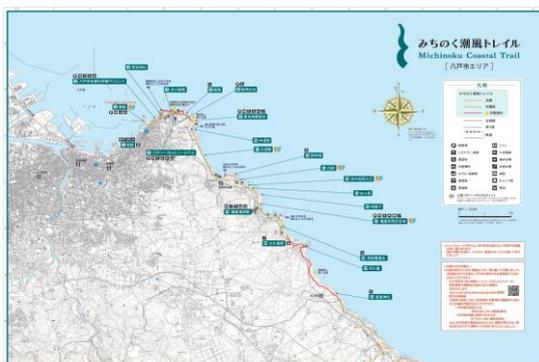


海岸沿いのルートを歩く参加者（洋野町）



階上町小舟渡でのセレモニー

○平成 25 年 11 月 29 日 青森県八戸市から岩手県久慈市の約 100km が開通
各市町にトレイルの開通を報告するとともに、トレイルマップの配布を開始。翌 30 日にはトレイルの北の玄関口となる八戸市蕪島において、環境省が整備したトレイル起終点標識（モニュメント）の序幕を行った。



トレイルマップ（八戸ルート）



標識の序幕

○平成 26 年 3 月 16 日 みちのく潮風トレイル開通イベント in 相馬・新地^{しんち}
平成 26 年中に開通予定の福島県相馬市及び新地町^{しんちまち}の区間でウォークイベントを実施。2 市町合計で 200 名ほどの一般参加があり、ゴール地点では地域住民らによるお振る舞いや歓迎のイベントが用意された。



開会式の様子（相馬市）



トレイルを歩く参加者（新地町）

今後の予定

- 引き続き各地域で路線検討、ワークショップを行い、順次開通を進める。
- 昨年度開通した八戸市から久慈市区間の踏破認定を試行的に実施。
- 平成 26 年度は、開通にかかるイベントやホームページ等による情報発信に加えて、認知度向上及びブランド確立のための広報業務を実施予定。
- 平成 27 年度中に全線開通を予定。

3. 地域の宝を活かした自然を深く楽しむ旅（復興エコツーリズム）

平成 25 年度

○ 復興エコツーリズムモデル事業

5 地域において、ワークショップや先進地視察等を通じた地域関係者のエコツーリズムに対する理解醸成を行い、地域の状況や特徴に応じたエコツーリズム推進の取組（エコツアープログラムの作成に向けた検討、ガイド育成、モニターツアー、エコツーリズムガイドブックの作成、取組体制の検討等）を実施した。

<各地域の取組内容>

<p>岩手県 久慈市 洋野町</p>	<p>【久慈市】地元団体が中心となり、学校向けであった既存の体験プログラムに地域資源の価値を深く解説する要素を付け加えるなどの検討を行い、一般観光客向けのプログラムを作成したほか、関係者向けの実践研修会等を通じ、ガイドスキルの向上を図った。</p> <p>【洋野町】行政、観光施設、図書館、地域住民等が参加し、豊かな海により育まれた文化や海の幸、清流と製鉄とのつながりなどを学ぶプログラムづくりを実施。</p>
<p>岩手県 山田町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商店主等による既存の取組である「震災語り部」を軸に、山田町の自然や暮らしも体験できるプログラムを検討し、地域関係者を対象とした模擬ツアーを実施。 ・船越半島や山田湾をフィールドとしたプログラムづくりを新たに検討し、関係者により新コースの視察等を実施。
<p>宮城県 気仙沼市 (唐桑地区)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津波語り部やガイド事業者、食に関する活動団体などの地域関係者が、唐桑半島の自然や漁撈文化、農産物、食などをテーマとするエコツアーのプログラムを開発し、モニターツアーを実施。 ・上記を含めた取組全体のコーディネートの役割を観光協会が担う推進体制が構築されつつある。
<p>宮城県 塩竈市 (浦戸諸島)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浦戸諸島の自然や人の営みを読み解くための冊子「浦戸諸島エコツーリズムガイドブック～うらとのウラガワをのぞこう！」を発行。作成には、小中学校の協力を得て、子どもたちにアンケートやインタビューを行い、浦戸諸島の宝を探すための視点を整理。 ・冊子の報告会と島あるきツアーを実施し、島の住民、子どもたち等と地域を読み解く楽しみを共有。
<p>福島県 相馬市 (松川浦)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旅館組合の中心メンバーが松川浦の干潟や水上景観、養殖漁業をテーマとするエコツアーのプログラムを開発。 ・モニターツアーで、津波に関する語り部からの解説のほか、水上からの景観を地元の船頭の解説で探勝するプログラム等を実施。 ・地域内での連携の強化、役割分担等について検討を進めた。

<取組の様子>



エコツアー研修会の様子(久慈市)



講習会での資源調査の様子(洋野町)



語り部プログラムの検討(山田町)



気仙沼市の関係者による先進地
視察(山梨県早川町)の様子



モニターツアーの様子
(気仙沼市)



小中学校でのグループインタビュー
の様子(塩竈市浦戸諸島)



「浦戸諸島エコツーリズムガイド
ブック」の冊子(塩竈市浦戸諸島)



報告会の島歩きツアーの様
子(塩竈市浦戸諸島)



モニターツアーの様子
(相馬市松川浦)

今後の予定

平成26年度は、平成24年度から実施している復興エコツーリズム推進モデル事業の最終年度であり、地域が自立したエコツーリズムの推進に資するよう5地域それぞれの特性を生かした実践的なエコツアープログラムの検討等を行い、地域が自立してエコツーリズムを実施するための体制構築を図る。

4. 里山・里海フィールドミュージアムと施設整備

平成 25 年度

○三陸復興国立公園施設整備実施状況

●種差海岸、階上岳等（青森県八戸市、階上町）

- ・公園指定にあわせて公園名標識を整備。種差海岸集団施設地区では、新たな利用拠点として必要なインフォメーションセンター、駐車場等の整備を10月から開始し、平成26年7月供用開始予定。

●浄土ヶ浜（岩手県宮古市）

- ・海岸歩道の本格復旧、バリアフリー化工事を完了した。7月に開通式及び渡り初めを行い、全線の供用を再開した。

●姉ヶ崎（岩手県宮古市）

- ・中の浜野営場跡地において、震災遺構の保存・展示のための「震災メモリアルパーク中の浜」を整備した。自然の脅威や震災の記憶を後世に伝える場として津波の高さを体感できる展望の丘などを整備。平成26年5月24日に開園式を行い、供用を開始する予定。
- ・中の浜野営場を高台に移転し、平成25年7月一部供用開始。平成26年7月から全面供用開始。防災対応として木質ボイラー等を整備。

●気仙沼大島（宮城県気仙沼市）

- ・昨年度田中浜に整備した「体験四阿（あずまや）」から高台へ避難する避難路を整備。

●その他の施設の復旧等

- ・碓氷海岸集団施設地区における木質ボイラー等を備えた防災型野営場の整備、北山崎（岩手県田野畑村）周辺海岸歩道の復旧整備等を推進した。
- ・牡鹿半島地区における整備基本計画を7月に策定した。

○里山・里海フィールドミュージアム

南三陸町戸倉地区及び石巻市北上地区において、里山・里海フィールドミュージアムの活動拠点となる施設の詳細について7月から検討を開始。



種差海岸インフォメーションセンター 完成イメージ



中の浜・展望の丘



田中浜・避難路

今後の予定

- 南三陸金華山国定公園編入後速やかに、南三陸町戸倉地区及び石巻市北上地区においては、里山・里海フィールドミュージアムの整備を、石巻市鮎川地区においては、利用拠点となる施設の整備を開始する予定。
- 東北太平洋岸自然歩道(みちのく潮風トレイル)の路線設定作業と並行して、利用拠点となる施設の確保について、検討を行う予定。
- 震災メモリアルパーク中の浜の開園と同時に、経団連自然保護協議会との連携事業として、生物多様性の配慮した樹木を使用した植林を行う「復興ふれあいの森」事業を実施。

5. 地震・津波による自然環境への影響の把握（自然環境モニタリング）

平成 25 年度

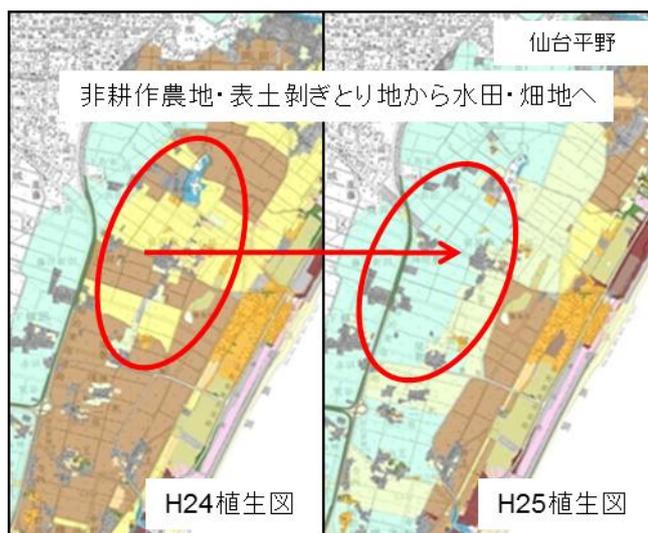
生物多様性センターが中心となって、平成23年度から情報収集を行うとともに、平成24年度から東日本大震災後の自然環境の変化を把握するための調査を開始した。



○平成25年度の調査状況

●植生調査

- ・平成24年度に作成した青森県～千葉県の津波浸水範囲（約576km²）の震災後植生図をもとに最新の震災後植生図を作成。
- ・昨年度に比べ非耕作地約3,600haが耕作地に変化し、外来種が増加した等の変化を確認。
- ・特定植物群落126箇所で行い、6箇所津波等による変化を確認した。



非耕作地から耕作地への変化

●重点地域調査、新たに出現した湿地の調査

重点地域調査及び新たに出現した湿地における調査として、15地点で動物、植物の重点的な調査（トランセクト調査）を実施し、各種希少種の生息等が確認された。

●生態系監視調査、モニタリングサイト 1000

干潟9カ所、アマモ場5カ所、藻場5カ所、海鳥繁殖地4カ所で生態系モニタリングを実施。震災前の状態に戻りつつある状況等、サイトごとに異なる変化状況について把握している。

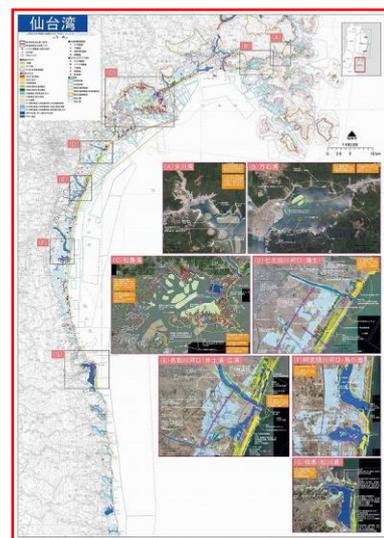
●重要湿地調査

重要湿地 500 に選定された湿地のうち、震災の影響が懸念される 169 箇所の湿地について、既存資料調査、現地調査（10 箇所）、ヒアリング、湿地の面的変化把握を実施。

●「重要自然マップ」の検討

地域の復興事業等に活用してもらうことを目的に、主に昨年度までの調査結果を活用し、津波浸水域における自然環境保全上重要な情報・地域を示すマップの作成を検討した。

マップには干潟、アマモ場、湿性植生、残存樹林などの「重要な自然」を図示するとともに、専門家の助言のもと、19 箇所の「重点エリア」を選定し、保全のためのより詳細な情報を示した。



重要自然マップ（仙台湾）

●成果の発信

- ・様々な主体がこれらの調査結果を始めとした各種の情報を共有するためのWEBサイト「しおかぜ自然環境ログ」(<http://www.shiokaze.biodic.go.jp/>)を平成25年11月にリニューアルし、データの検索、表示機能などを追加。
- ・日英のパンフレットを作成し普及啓発に努めるとともに、アジア国立公園会議を通じて広く海外に発信。
- ・市町村の復興事業に資する観点から、市町村別の報告書・データを作成し、各自治体に提供。



配布用パンフレット

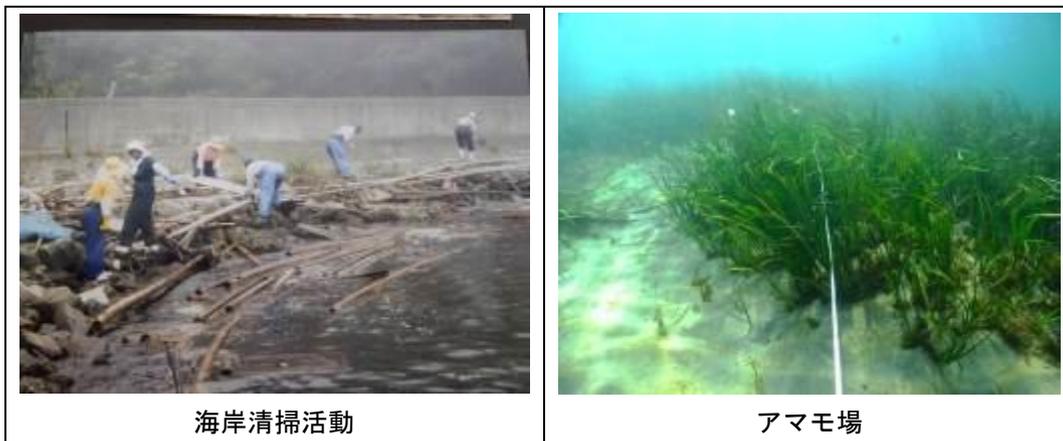
今後の予定

より多くのデータの蓄積と公表を図るとともに、生態系の変化状況のモニタリングを継続する。また、平成 27 年度を目処に、これまでの調査結果のとりまとめを行う。

6. 森・里・川・海つながりの再生

平成 25 年度までの取組

- 平成 23 年度に宮古湾、大槌湾、気仙沼湾等で国が実施した海域モニタリング調査等の結果から、高い水質浄化機能を持つ「アマモ場」の大規模な消失・密度低下が報告されるなど、海域環境に大きな影響が生じていることが判明。
- そのため、「アマモ場の再生」などの里海づくり（人の手による環境再生）の手法を用いた具体的な復興取組の検討を開始。
- アマモ場の多くが消失した岩手県宮古湾では、平成 25 年 3 月に、宮古湾の現況や再生の目標、再生に向けて実施する活動とその推進体制等を記した「宮古湾里海復興プラン」を策定。
- 宮古湾におけるプラン策定やアマモ場再生の取組を進める過程で得られたノウハウ等をもとに、平成 26 年 3 月に「里海復興プラン策定の手引き」を策定。



今後の予定

手引きには、里海復興の事前検討方法、現地調査方法、活動の具体例等を盛り込んでおり、今後は、この手引きを東北沿岸各地に紹介することなどにより、里海復興を支援していく。

7. 持続可能な社会を担う人づくり（ESD）の推進

平成 25 年度

- 平成 24 年度には、東日本大震災の経験を機に新たに取組んでいる環境保全活動や環境教育などについて、青森県、岩手県、宮城県の幼稚園、小中学校、高等学校等約 4,000、地方公共団体や民間団体等約 80 へ調査をかけ、840 近くの事例の中から、ESD プログラムとなる取組を選出し、10 種類のプログラムを作成。
- 平成 25 年度では、これらの 10 プログラムを、東北地方へ還元し、実践を促すとともに、ESD 及び 10 プログラムの周知を図るため、「東北地方 ESD プログラムチャレンジプロジェクト」として、東北 6 県の学校、企業、NPO 等民間団体、その他生徒らグループなど、幅広い主体を対象に、10 プログラムの実践を促進するプロジェクトを展開。
- 平成 26 年 2 月 8 日に仙台国際センターで開催した発表大会では、選考された 15 団体がそれぞれの取組を発表。八戸市立小中野小学校（青森県）が環境大臣賞を受賞した。また青森県、岩手県、宮城県、山形県、福島県からそれぞれ県知事賞が授与されたほか、審査員特別賞（ORI☆姫隊賞）も授与された。
- 会場では、三陸復興国立公園の映像資料を上映したほか、みちのく潮風トレイルのパネル展示を行い、他のグリーン復興プロジェクトとの連携を図った。



発表する児童たち



環境大臣賞の授与



受賞者と記念撮影



三陸復興国立公園の映像資料上映



みちのく潮風トレイルパネル展示



ORI☆姫隊のステージ

今後の予定

平成 26 年度においては、東北地方でのさらなる拡大浸透を図るとともに、全国に向けて東北発となる取組紹介等を展開していく予定。

8. その他

○アジア国立公園会議（平成 25 年 11 月 13 日～17 日）での三陸復興国立公園の取り組み発信

①全体会議での講演

- ・「三陸復興国立公園の創設－自然共生社会の実現を目指して（武内中央環境審議会会長）」
- ・「グリーン復興プロジェクトと新三陸復興国立公園（環境省）」

②三陸復興国立公園紹介DVD「国立公園がつなぐ未来 ～三陸復興国立公園から見る日本の国立公園～」の作成

- ・津波による複数の被災箇所の震災前・震災後を映像で比較し、その変化の状況を記録
- ・復活しつつある三陸地域の自然と自然、自然と人、人と人の繋がりを映像で表現

③サイドイベント

- ・東日本大震災からの復興における協働型管理（環境省以外の団体のグリーン復興にかかる取組）として、三陸ジオパーク、牡鹿半島での建築家による復興ボランティア、松川浦における復興エコツーリズムを紹介

④ポスターセッション

- ・グリーン復興プロジェクト、三陸復興国立公園、みちのく潮風トレイル、復興エコツーリズム、震災の記憶の伝承（中の浜野営場遺構保存の取組）

⑤エクスカージョン

- ・三陸復興国立公園の現地見学：八戸、宮古、気仙沼、仙台海浜の4コースで、被災状況やグリーン復興プロジェクトの取組を紹介。（約 250 名が参加）



基調講演の様子（武内会長）



エクスカージョンの様子（蒲生干潟）